

まちづくり協議会運営アンケートより

これからのまちづくりを考えた時、まちおこしや世代交流など課題に対応した事業の必要性を感じています。新たな事業を考えたり、これまでの事業を集約したりするにはどうしたらいいでしょうか？

アイデア紹介

新たな人や意見に耳を傾けてみる

～富士市立高校では、2年生が5月から市内10地区について、地域課題解決のプランづくりに取り組んできました～

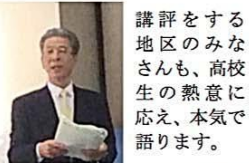
富士市立高等学校で『究タイム市役所プラン発表会』が開催されました。

9月30日に富士市立高校にて行われた発表会には、対象となった地区のまちづくり協議会役員のみなさんも参加しました。

プレゼンテーションでは、高校生から見た地区の課題、夏休み期間中の地区でのフィールドワーク内容、課題解決にむけた提案が発表されました。地区のみなさんは

協議のうえ、1地区6つの提案のなかから最優秀提案を選びました。

提案された主なアイデア
 ・特産物を生かした商品開発
 ・歴史文化を活用したイベント企画
 ・ゆるキャラ作成で話題づくり など



講評をする地区のみなさんも、高校生の熱意に応え、本気で語ります。



最優秀提案を決める話し合いも白熱しました。

担当された高校の先生方は生徒たちの変化を感じたそうです。「日頃の学習などではできない貴重な経験になったと思います。地元のみなさんの思いに直に触れることで、自分たちがまちに貢献することを意識していきました。1つでも多く実現されることを期待しています。」と話されていました。



高校生の提案を生かそうと動き出している地区があります

松野地区では、提案されたプランに感動し、ぜひ活用していきたいと考えました。そこで、さっそく10月25日に行われた地区文化祭で住民のみなさんにむけて発表していただきました。



高校生の新鮮なアイデアに熱心に聞き入っています。

まちづくりセンター長と地区担当班長の研修会を行いました

まちづくりセンター長と地区担当班長が集まり、それぞれの地区における行動計画づくりの状況の確認や地区担当班の関わり方について調整しました。さらに、地区間の情報交換を行い、他地区の状況のなかから効果的な手順や工夫などを学び合いました。



コブタ ④

レポ

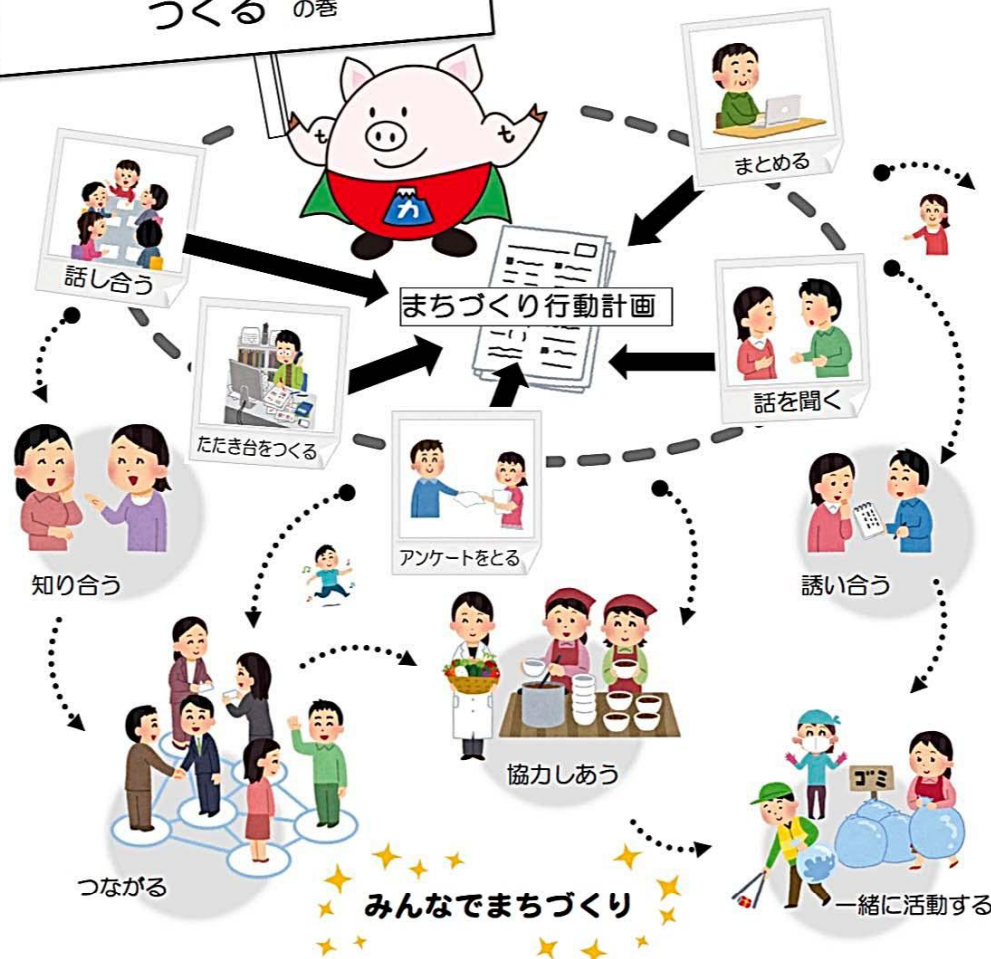
地域のかご増進計画・ニュースレター

KOBUTA REPORT

まちづくり行動計画をつくる の巻

発行 平成 27年 11月
 発行者 富士市市民部まちづくり課
 富士市永田町1丁目100番地(富士市役所3階)
 電話 0545-55-2887
 HP <http://www.city.fuji.shizuoka.jp/>

「まちづくり行動計画」づくりもいよいよ仕上げの時期になってきました。作業やしめきりに追われることもあるかもしれません。みなさんは、どんな場面に登場しているのでしょうか？計画づくりが地区の関わり合いをさらに深め、また、あらたなつながりを広げるきっかけになっているかという視点も大切にしながら進めていきたいですね。

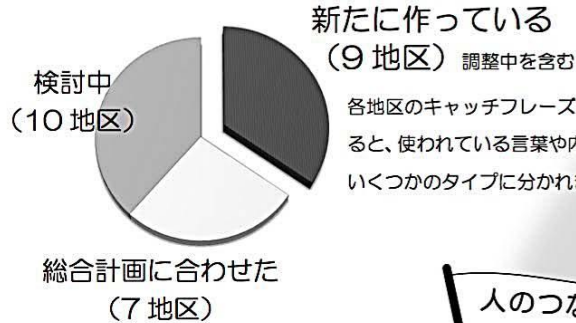


このニュースレターでは、今年度完成を目標に、各地区で進められているまちづくり行動計画づくりの様子をお知らせするほか、協議会を運営していくうえでの課題に対応したヒントなどもご紹介いたします。それぞれの地区のまちづくり行動計画づくりや協議会活動の活性化にぜひお役立てください。

まちづくりの目標を共有しよう

キャッチフレーズは、まちづくり行動計画の内容を凝縮させ、これからの理想のまちの姿やまちづくりの方向を短い言葉で指し示す地区のみんなの合い言葉です。そのなかには、それぞれの地区で大切にしていきたいことが表されています。

各地区に聞きました。
まちづくり行動計画のキャッチフレーズは…



各地区のキャッチフレーズを並べてみると、使われている言葉や内容などで、いくつかのタイプに分かれました。

理想像型

夢

融和と連帯の住民が主役の三世代の夢が叶えられる優しいまち 天間 (天間)

人のつながり

住民が固い絆で支えあっていける、安心、安全に暮らせるまち 吉原地区 (吉原)

大淵地区

誰もが集い、ふれあい、心豊かに生き生きと暮らすまち おおぶち



大淵地区
まちづくり協議会
会長 小林忠幸さん

大淵地区まちづくり協議会会長の小林忠幸さんは、「大淵地区はまとまりがあり、住民が主体的にまちづくり活動をしていることが自慢です。」と話します。

富士山麓の不法投棄に悩まされていたことから平成18年に始まった「クリーン作戦」は9年間で参加者が2倍になり、ゴミの量は3分の1に減りました。この活動を契機として、大淵地区のシンボルであるみつばつつじの「3万本植樹計画」にも取り組んでいます。今年度のクリーン作戦

は11月29日(日)に1,280人が参加して行われる予定です。

また、5月に行われる「おおぶちお茶まつり～写真コンテスト」の表彰式を、地区の最も大きな行事である7月の「ふれあいまつり」に行うなど、地区の資源を生かし、さまざまな行事をつなげてより多くの住民や団体が関わられるような工夫をしています。



写真コンテスト撮影会

自然と人

自然を愛し、こころ豊かで、人にやさしく安心して暮らせるふるさと須津 (須津)

みどり豊かで人と人の輪が広がるまち 神戸地区 (神戸)

人と人とのふれあいのまち 緑豊かなまち 松野地区 (松野)

美しく、豊かな自然に囲まれながら便利で安心なふれあいのあるまち 丘地区 (丘)

子ども

(仮)安全・安心で、住み心地よく希望にあふれ、子供たちが健やかに成長する生涯学習と健康づくりのまち。富士駅南地区 (富士駅南)

住む

安全で安心できる、住んでいてよかったと思えるまち 青葉台地区 (青葉台)

住みたい、住み続けたいと誰もが思うまち 富士駅北地区 (富士駅北)

元気な明るい安心安全な住みよいまちづくり (広見)

行動宣言

みんなでつろう住みたい・訪れてみたい魅力あるまち 元吉原 (元吉原)

いつも安全、みんなの安心 全員参加で 造って・もって 続ける地区 富士見台地区 (富士見台)

子どもから高齢者まで誰もが心豊かで笑顔あふれるまちづくりを推進する 富士川地区 (富士川)

「将来に渡って住み続けたいまち」であり続けるために、心一つにして取り組みます。(鷹岡)

スローガン型

具体的な行動

あいさつのまち 田子浦
きれいなまち 田子浦
各種団体の連携強化 (田子浦)

活動活性化の秘訣として、組織体制をすっきりさせているため、情報伝達がスムーズであること、何か行事を行う時は、前と同じではなく、前よりもよくなる工夫を積み重ねていることを強調されています。



写真コンテスト表彰式

大淵地区ふれあいまつり



小林さんは、まちづくり協議会会長として「つなげていかないと丸くならない」と実感し、まちづくり協議会の目的そのものを、日頃から実践されています。

このような大淵地区の特色をより多くの住民のみなさんと共有し、これからも生かしていこうという意気込みをこのキャッチフレーズに込めました。

地区の誰もがキャッチフレーズを言えるようになったら、日頃の活動も関わり方、受け止め方が変わってくるかもしれません。